

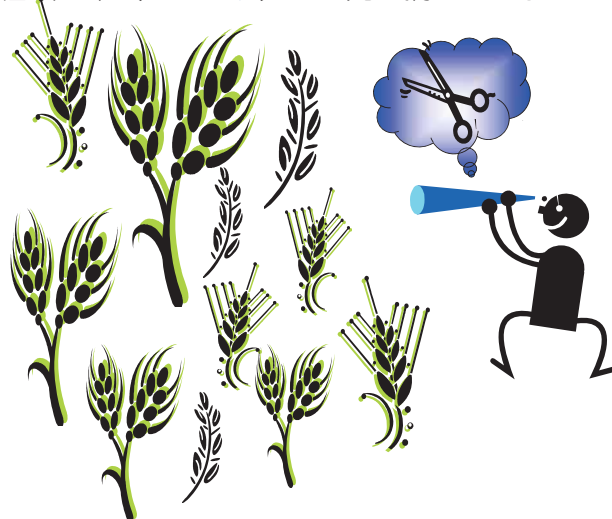
# 保線作業における ヒューマンエラーのリスク管理手法

## 【概要】

効果的なエラー防止策の検討判断には、どのような場面におけるどのようなヒューマンエラーがどのような頻度でどのような被害の事故に繋がる可能性があるのかを把握することが必要です。

この判断を支援するため、保線作業におけるヒューマンエラーのリスク評価手法とこれを用いたリスク管理支援手法を作成しました。

成長が早くて（発生しやすい）  
大きくなってしまおう（結果が大きい）  
種類の草（ハザード）から先に摘んでしまおう！



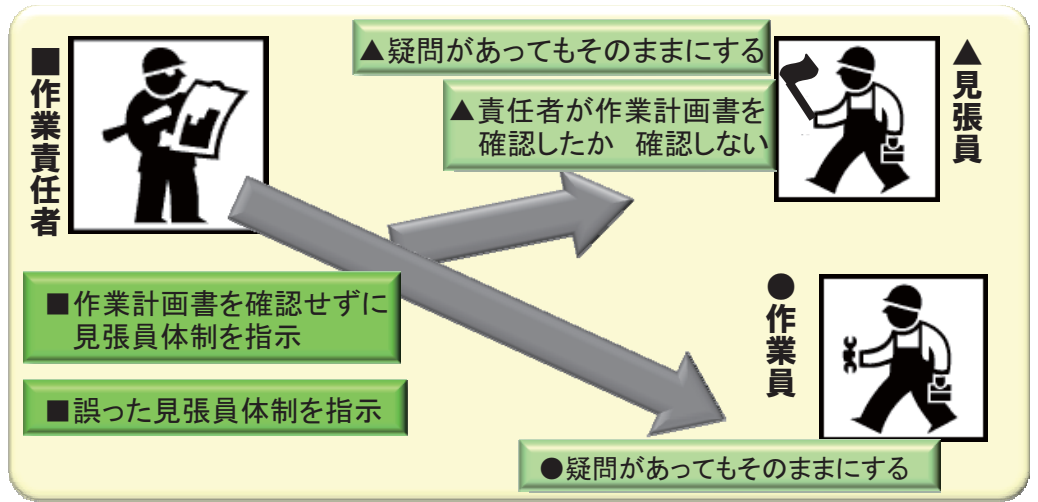
## 【特徴】

- エラーの発生し易さと最大の事故（可能性）からリスク値を算出します。
- リスク値と誘発要因の影響度を組合せて、対応するエラー防止策の優先度を定量的に算出します。



## 【用途】

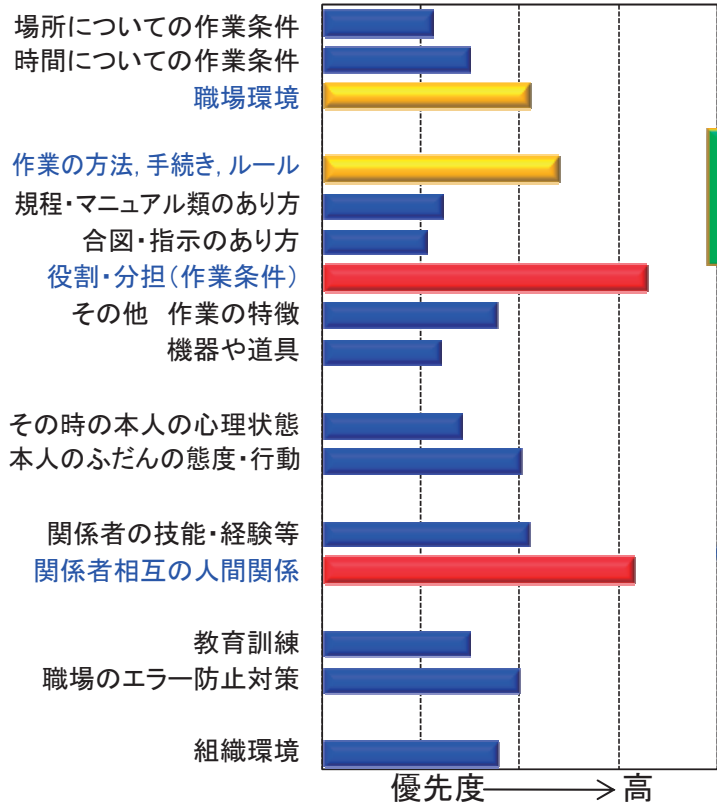
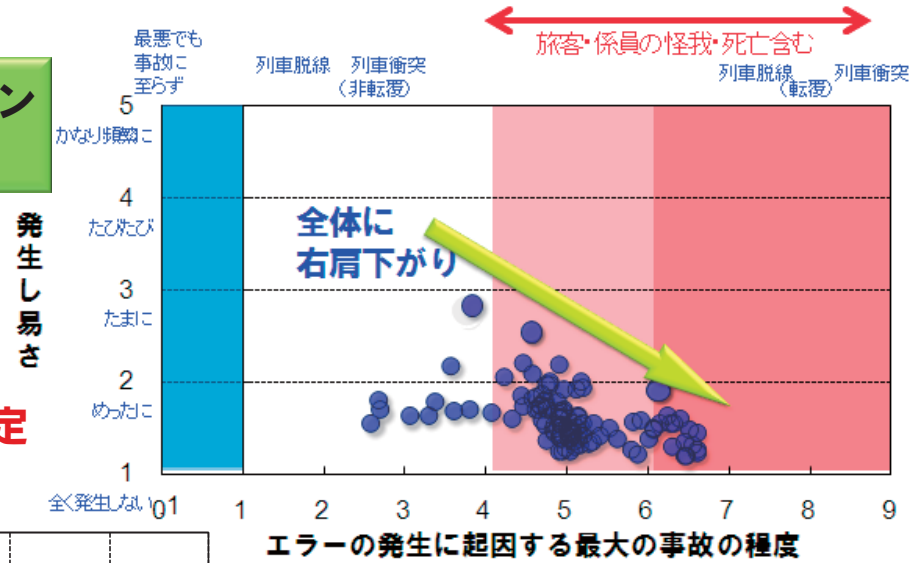
優先的に対応すべきヒューマンエラー事象とその防止策の特定に役立ちます。作業地域や職場ごとの評価を行うことにより、状況に見合った効果的なエラー防止策が特定できます。また、活動の重要さを数値で評価するため、安全へのモチベーションが活性化（安全風土が醸成）され易くなります。



## 113件のエラーパターン (3係員×14場面)

### リスク評価の結果例

リスク値で対策目的を特定



## 145件のエラー誘発要因 (ヒューマンファクタモデルに対応した16分類)

### エラー防止策の優先度の結果例